

晩冬

大橋千佳子

図書館のエントランスのブックフェア古書店好きのシニアが集う

古本は市民持ち寄り断捨離の決断の果て拾う神あり

館内になき専門書つましくまた誇らしく箱に納まる

小説と実用本が整然と並ぶ書架よりノンジャンルが好き

赤ちゃんを膝に絵本を読み聞かすパパたちの声耳新しく

幼子は書架を往き来し吟味する貸し出し数が十冊なれば

図書分類はいわば縦割り各書架に分散された目的の本

澄まし声「その本ならばこちらです。」今日の案内は五勝三敗

激励も叱咤も不要今はただ命継ぐ物資彼の地に届け

陣取りで命を奪う。耕作放棄地にセイトカアワダチソウ